

# 「こどもの自殺対策緊急強化プラン」 に基づく取組の進捗状況について



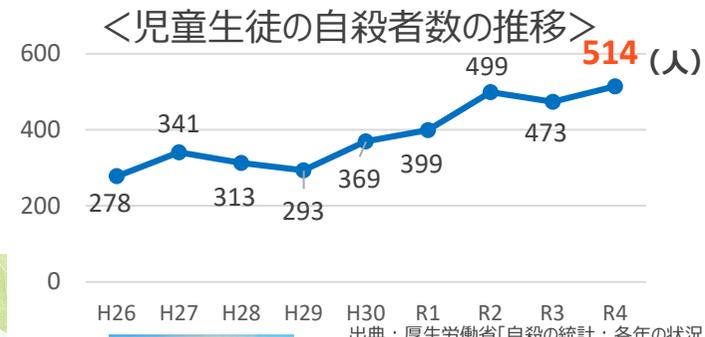
# 児童生徒の自殺対策の推進について

令和6年度要求・要望額

103億円の内数  
(82.5億円の内数)

現状・課題

- 児童生徒の自殺者数は近年増加傾向にあり、令和4年には514名と過去最多を更新しており、児童生徒の自殺対策の強化は、喫緊の課題。
- 令和5年6月に政府において取りまとめた「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づき、1人1台端末等を活用した「心の健康観察」による自殺リスク等の早期把握やSOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育の充実、SC・SSWの配置充実・SNS相談体制の整備等教育相談体制の充実を図る。



これまでの主な取組

- H21年 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」作成
  - H22年 「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き」作成
  - H26年 「子供に伝えたい自殺予防－学校における自殺予防教育導入の手引き－」作成  
「子供の自殺が起きたときの背景調査の指針」改訂
  - H30年 自殺総合対策大綱の改定等を踏まえて「SOSの出し方に関する教育」等の推進に係る通知を发出
  - R03年 児童生徒向け自殺予防の啓発動画作成公表／「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」審議まとめを公表
- ※例年、長期休業前後には、大臣メッセージ发出・自殺予防に係る広報・普及啓発活動等を実施



(児童生徒向け自殺予防啓発動画)

今後の取組の方向性

自殺予防に資する教育や普及啓発

- **自殺予防教育のモデル構築・啓発資料の作成** 【R6要求：13億円の内数(新規)】  
・自殺予防教育の発達段階に応じた指導資料、コンテンツ等を検討・作成し、全国へ周知
- **「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会」の開催** (教育委員会担当者、学校の管理職等への研修会、全国10ブロックで開催)

自殺リスクの早期発見早期対応

- **スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実** 【R6要求：90億円(82億円)】  
・SC・SSWの配置及び重点配置校数の拡充、より課題を抱える学校の配置時間を拡充(自殺予防教育実施の支援を含む)
- **1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進** 【R6要求：6.4億円(新規)】  
・1人1台端末を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、SOSや自殺リスク等の早期把握につなげる「心の健康観察」の導入推進
- **SNS等を活用した教育相談体制の整備推進** 【R6要求：63億円の内数(59億円の内数)】

事後対応

- 「子供の自殺が起きたときの背景調査の指針」等に基づく対応の徹底 ※非予算
- 詳細調査報告書等の収集、こどもの自殺の要因について政府全体での多角的な分析への活用 ※非予算

# スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実

令和6年度要求・要望額  
(前年度予算額)

90億円  
82億円)文部科学省



- ◆ 義務教育段階の不登校児童生徒数は、平成24年度から9年連続で全体の人数・児童生徒千人当たりの人数ともに増加しており、**様々な課題を抱える児童生徒への早期支援、不登校状態にある児童生徒への手厚い支援**に向けた相談体制の充実が必要。
- ◆ また、社会問題化している昨今の児童虐待相談対応件数の急増等を踏まえ、**学校における児童虐待の未然防止・早期発見や、児童虐待発生時の迅速・的確な対応**に向けた相談体制の充実も喫緊の課題。
- ◆ さらに、「**経済財政運営と改革の基本方針2023**」等を踏まえ、**不登校、重大ないじめ・自殺への組織的な早期対応等**に向けた相談体制の充実も課題。



## スクールカウンセラー等活用事業

令和6年度概算要求・要望額：6,291百万円(前年度予算額：5,889百万円)  
事業開始年度：H7～(委託)、H13～(補助)

### 補助制度

- 負担割合：国 1/3、都道府県・政令指定都市・**中核市** 2/3
- 実施主体：都道府県・政令指定都市・**中核市**
- 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等



### 求められる能力・資格

- 児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する者  
⇒ 児童の心理に関する支援に従事(学教法施行規則)
- 公認心理師、臨床心理士等

### 基盤となる配置

- 全公立小中学校**に対する配置(27,500校)  
配置時間：週1回概ね4時間程度

### 重点配置等

- **重点配置校** : **7,800校** (←7,200校)  
配置時間：週2回4時間分措置  
⇒ 重点配置の活用により、**週1回8時間(終日)**などの配置も可能

・課題に応じた配置の充実

- > **いじめ・不登校対策** : **3,500校** (←2,900校)  
※夜間中学への配置を含む
- > **虐待対策** : **2,000校**
- > **貧困対策** : **2,300校**

・質の向上、配置拠点の機能強化

- **特に課題を抱える学校に対する連携支援体制強化のための配置時間充実**  
：重点配置校のうち **2,000校** (新規) 週2日8時間分に拡充
- **スーパーバイザー** : **90人**
- **不登校特例校** : **24箇所** (新規) 週5日8時間分
- **教育支援センター** : **250箇所**
- **オンラインを活用した支援** : **67箇所**

上記のほか、**自殺予防教育実施の支援**を含む

## スクールソーシャルワーカー活用事業

令和6年度概算要求・要望額：2,659百万円(前年度予算額：2,313百万円)  
事業開始年度：H20～(委託)、H21～(補助)

- 負担割合：国 1/3、都道府県・政令指定都市・中核市 2/3
- 実施主体：都道府県・政令指定都市・中核市
- 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等



- 福祉に関して専門的な知識・経験を有する者  
⇒ 児童の福祉に関する支援に従事(学教法施行規則)
- 社会福祉士、精神保健福祉士等

- 全中学校区**に対する配置(10,000中学校区)  
配置時間：週1回3時間程度

- **重点配置校** : **10,000校** (←9,000校)  
配置時間：週2回3時間分措置  
⇒ 重点配置の活用により、**週2回や週3回**などの配置も可能

- > **いじめ・不登校対策** : **4,000校** (←3,000校)  
※夜間中学への配置を含む
- > **虐待対策** : **2,500校**
- > **貧困対策** : **3,500校**  
※ヤングケアラー支援のための配置を含む

- **特に課題を抱える学校に対する連携支援体制強化のための配置時間充実**  
：重点配置校のうち **2,000校** (新規) 週2日8時間分に拡充

- **スーパーバイザー** : **90人**
- **不登校特例校** : **24箇所** (新規) 週5日8時間分
- **教育支援センター** : **250箇所**
- **オンラインを活用した支援** : **67箇所**

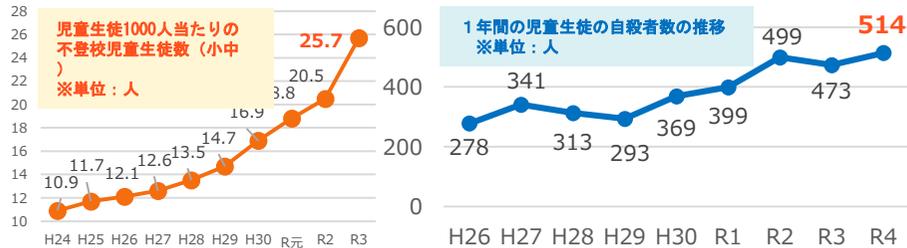
担当：初等中等教育局児童生徒課

# 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の推進(Listen)

Learn and Increase Self-awareness To Ease the Nerves with GIGA device

## 背景・課題

- いじめや不登校、児童生徒の自殺が増加する中、**児童生徒の心や体調の変化を把握し、児童生徒が発するSOSを早期に発見して対処していくことが重要。**
- これまでは、教職員によるスクリーニング、児童生徒からの訴えなどを通じて児童生徒のSOSを把握していたが、**既にいじめや不登校、自傷、自殺といった具体的な問題として表面化してしまっているケースも多い。**
- 児童生徒の心身の状況を把握し、**メンタルヘルスの悪化や小さなSOS、学級の変容などを教職員が察知**でき、また、**児童生徒がSOSを発信しやすい仕組み**を構築することで、早期発見早期対応を可能とし、**問題が表面化する前から積極的に支援につなげていくことで未然防止を図る必要。**



## 目指すべき姿

- 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」や「こどもの自殺対策緊急強化プラン」を踏まえ、**全ての学校において、1人1台端末等を活用した「心の健康観察」を実施し、児童生徒のメンタルヘルスの悪化やSOSを早期に把握し、SCやSSW、養護教諭等とも把握した情報を共有しつつ、チームで支援を実施する体制構築を目指す。**
- **アプリ等を用いてエビデンスに基づく具体的なリスク予測が可能となり、児童生徒の言動や教職員の目では分からない小さなSOSを把握し、早期支援につなげる。**

### <不登校対策に係る取組状況調査：R5.2実施>

- アプリ等を用いた児童生徒の心や体調の変化の把握を行っている自治体  
⇒都道府県：29 市町村：411
- 今後アプリ等の活用を検討している自治体  
⇒都道府県：10 市町村：580
- アプリ等を用いておらず検討していない自治体  
⇒都道府県：8 市町村：771



## 事業概要

① 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入推進【委託】 **632百万円**

- 1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、メンタルヘルスの悪化や児童生徒が発するSOSの早期発見・早期支援につなげる「心の健康観察」の導入を推進。

②「心の健康観察」の活用による問題行動等の未然防止に向けた予防的指標の開発等調査研究【委託】 **4百万円**

- ICTの活用により把握した心身の健康状態と問題行動等を調査・分析し、科学的根拠に基づく不登校や自殺等の予防的指標の開発や関係機関等とのデータ連携に係るモデル構築を推進。

### 委託先

- ① 都道府県・指定都市等
- ② 地方公共団体又は民間事業者

### 実施主体

学校設置者（市区町村及び私立は、都道府県経由）

### 委託対象経費

- ① パイロット校のアプリ導入費用、パイロット校導入に係る検討費用、教職員への研修や域内の全学校への普及に係る費用
- ② 調査研究に係る検討費用やデータ分析費用

# SNS等を活用した相談事業

令和6年度要求・要望額  
(前年度予算額)

63億円の内数  
59億円の内数)



## 背景

- いじめを含め、様々な悩みを抱える児童生徒に対する相談体制の拡充は、相談に係る多様な選択肢を用意し、問題の深刻化を未然に防止する観点から喫緊の課題。
- 座間市におけるSNSを利用した高校生3人を含む9人の方が殺害された残忍な事件をきっかけに、それ以降もスマートフォンの普及が進んでいるなか、最近の若年層の用いるコミュニケーション手段においては、SNSが圧倒的な割合を占めていることから、それを踏まえた相談体制の整備を図る必要がある。

(参考)

主なコミュニケーション手段の平均利用時間（令和5年度版情報通信白書（総務省））  
[平日1日]（令和4年度）  
10代：携帯通話 6.3分、固定通話 0.2分、ネット通話 19.0分、ソーシャルメディア 64.2分、  
メール利用 16.1分

## 事業概要

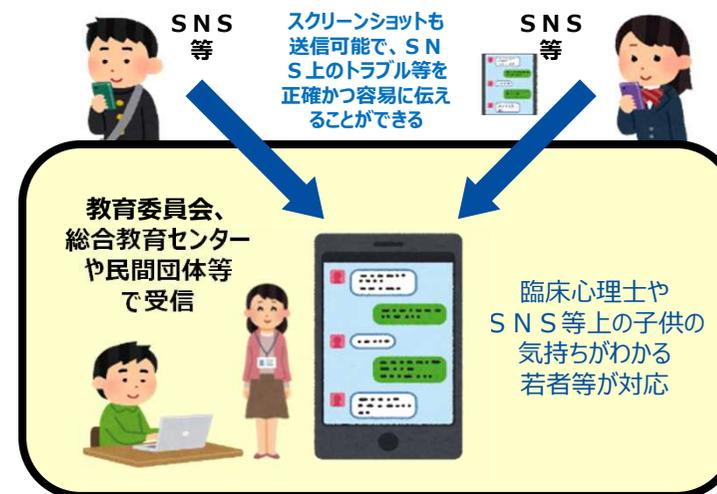
### SNS等を活用した相談体制の整備に対する支援（補助事業）

(事業内容)

SNS等を活用した双方向の文字情報等による相談を実施するとともに、相談員の専門性を向上させる研修の実施等を支援。

令和3年度より、支援の対象を全ての都道府県・指定都市に拡大。

## 【イメージ】SNS等を活用した相談



(例) 自殺をほのめかす等、命に関わる相談の場合の連絡の流れ



実施主体	都道府県・指定都市	対象校種	小学校・中学校・高等学校等
費用負担	国：1 / 3 都道府県・指定都市：2 / 3	対象経費	報酬、期末手当等

(担当：初等中等教育局児童生徒課)

# 自殺予防週間に向けた 文部科学省の取組について



文部科学省

# 児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)

(令和5年7月10日付け5初児生第4号)

## 通知の概要

18歳以下の自殺は、長期休業明けの時期に増加する傾向があること、特に令和4年中における児童生徒の自殺者数は514人と過去最多となり、大変憂慮すべき状況にあることを踏まえ、以下に掲げる取組を、学校が保護者、地域住民、関係機関等と連携の上、長期休業の開始前から長期休業明けの時期にかけて実施することを周知。

### (1)学校における早期発見に向けた取組

- 各学校において、長期休業の開始前から1人1台端末等も活用しつつ、アンケート調査、教育相談等を実施し、悩みや困難を抱える児童生徒の早期発見に努めること。学校が把握した悩みや困難を抱える児童生徒やいじめを受けた又は不登校となっている児童生徒等については、長期休業期間中においても、全校(学年)登校日、部活動等の機会を捉え、又は保護者への連絡、家庭訪問等により、継続的に様子を確認すること。
- 児童生徒に自殺を企図する兆候がみられた場合には、保護者、医療機関等と連携しながら組織的に対応すること。
- 夏休み中にSCのカウンセリングやSSWによるスクリーニングを新たに行った場合には、追加配置が可能な場合もあり、相談いただきたいこと。
- 「SOSの出し方に関する教育」を含めた自殺予防教育、「心の健康の保持に係る教育」を実施するなどにより、児童生徒自身が心の危機に気づき、身近な信頼できる大人に相談できる力を培うとともに、児童生徒が安心してSOSを出すことのできる環境を整備すること。
- 「24時間子供SOSダイヤル」を始めとする電話相談窓口や、SNS等を活用した相談窓口の周知を長期休業の開始前において積極的に行うこと。

### (2)保護者に対する家庭における見守りの促進

- 保護者に対して、長期休業期間中の家庭における児童生徒の見守りを行うよう促すこと。保護者が把握した児童生徒の悩みや変化については、積極的に学校に相談するよう、学校の相談窓口や、「24時間子供SOSダイヤル」を始めとする相談窓口を周知しておくこと。

### (3)学校内外における集中的な見守り活動

- 長期休業明けの前後において、学校として、保護者、地域住民の参画や、関係機関等と連携の上、学校内外における児童生徒への見守り活動を強化すること。

### (4)ネットパトロールの強化

- 教育委員会等が実施するネットパトロールについて、長期休業明けの前後において、平常時よりも実施頻度を上げるなどしてネットパトロールを集中的に実施すること。

## その他

- 1人1台端末等を活用して、無償・有償で利用できる健康観察・教育相談システムを整理するとともに、Google フォーム又はMicrosoft Formsを活用して同様のアンケートフォームを作成するためのマニュアルを新たに作成し、今般の通知において周知。

# 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見の推進

こどもの自殺対策緊急強化プラン（令和5年6月2日）を踏まえ、1人1台端末等を活用して児童生徒の心や体調の変化を把握し、自殺リスク等の早期発見につなげる取組を推進するため、「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」（令和5年7月10日付け）において、以下を教育委員会等に周知。

- 無償・有償で利用できる健康観察・教育相談システムの一覧
- Googleフォーム又はMicrosoft Formsを活用した無償のアンケートフォーム作成マニュアル

## <健康観察・相談システム一覧（抜粋）>

無償		
会社名	システム名	機能
Google	Google フォーム	・健康観察 ・相談窓口
Google	Looker Studio <a href="#">【Google】Looker Studio in a minute -YouTube</a>	・データの可視化
Microsoft	Microsoft Forms	・健康観察 ・相談窓口
Microsoft	Reflect	・健康観察

有償			
会社名			
一般社団法人 RAMPS	公益社団法人 子どもの発達科学研究所	スタンドバイ株式会社	株式会社 ミライト・ワン・システムズ
			
株式会社 リーバー	株式会社 EDUCOM	株式会社 LoiLo	株式会社 Welcome to talk
			

## <アンケートフォーム作成マニュアル>

○本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法や、GAS（Google Apps Script）やマクロの起動方法について解説。

### <質問項目>

- 1.日付
- 2.クラス
- 3.出席番号
- 4.名前
- 5.体調
- 6.心の状態（心の天気）
- 7.教育相談の希望
- 8.相談相手の指定
- 9.自由記述欄

#### 健康観察・教育相談アンケート作成マニュアル

本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法を解説いたします。

<質問項目>  
1.日付 2.クラス 3.出席番号 4.名前 5.体調 6.心の状態（心の天気）  
7.教育相談の希望 8.相談相手の指定 9.自由記述欄

※Google フォーム イメージ



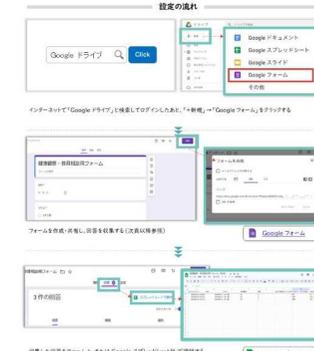
※Microsoft Forms イメージ



#### 児童生徒に健康観察・教育相談のアンケートを行う

Google フォームで Web アンケートを作成・共有することで、健康観察や教育相談をすることができます。

設定の流れ



アンケートで「Google ドライブ」に格納したあと、「+新規」→「Google フォーム」を選択する

フォームを作成（共有）し回答を収集する（全員に送信）

作成の履歴

従来の回答者フォームより、または Google スプレッドシート™ で管理する（全員に送信）

#### マクロ起動方法について

Microsoft Formsで作成した回答Excelで、マクロを起動させる方法を解説します。

(1) Excelファイルをクリックできるファイル形式に拡張子を変更する。  
[Microsoft Formsで作成したExcelファイルを開く]⇒[ファイル]⇒[拡張子]⇒[ファイルの種類の変更]⇒[マクロ有効ブック (\*.xlsm)を選択]⇒[名前を付けて保存]



(2) Excelマクロを使用できるようにする。  
[ファイル]⇒[オプション]⇒[セキュリティセンター]にある[トラストセンター]⇒[マクロの設定]

※Excelのバージョン等によって設定方法は異なります。



# 児童生徒の自殺予防のための広報・啓発活動について

- 学校の長期休業明けに自殺者数は増加傾向にあること等を踏まえ、児童生徒や学生等に向けた自殺予防に係る文部科学大臣のメッセージを文部科学省HP・SNSに掲載するとともに、相談窓口を周知。
- あわせて、文部科学省ホームページを一部改修し、相談窓口を見やすく整理。

## < 大臣メッセージ >

文部科学省  
小学生的みなさんへ  
～不安や悩みがあったら話してみよう～

もうすぐ夏休みが終わりますが、みなさんはどんな気持ちでしょうか。学校で笑しふりに友達と話をしたり、みんなで勉強したりするのが楽しみな人もいれば、もしかすると、いつもの生活や学校生活に困ったことや嫌なことがある人、学校が始まるのが不安な人もいます。

みなさんだけでなく、だれにも不安や悩みはあるものです。不安や悩みがあるときは、一人でかかえず、家族や先生、学校のスクールカウンセラー、友達など、しんらいできる人になやみを話してみてください。

どうしても周りの人に話しづらいときは、電話やメール、ネットで相談できる窓口もあります。人に相談することは決してすかしいことではなく、身ぎうでいくうえで大切なことです。ためあずまずは相談してみましょう。以下で紹介している相談窓口は、いつでもあなたの悩みを聞いてくれる人がいます。

もし、あなたの周りに元気がない友達いたら、せの積極的の声をかけて、しんらいできる人になやみを話してください。また、身近に相談できる場所としてどこかあるところがあるか調べてみましょう。

電話やメール、ネットなどの相談窓口  
(リンク先には警察、児童相談所などの相談窓口一覧もあります。)

令和5年8月  
文部科学大臣 永岡 桂子

文部科学省  
保護者や学校関係者等のみなさまへ

厚生労働省・警察庁の統計によると、令和4年における児童生徒の自殺者数は過去最多の514人となり、大変憂慮すべき状況にあります。特に高校生の男子生徒の自殺者数は、前年比べて大きく増加しております。また、学生長期休業明けには、児童生徒等の自殺者数が増加する傾向にあり、この時期には、不安や悩みを抱える児童生徒等が増えることも考えられます。

保護者や学校関係者、地域のみなさまにおかれましては、以下のような児童生徒等の態度に現れる微妙なサインに注意を払っていただき、不安や悩みの声に耳を傾けて適切に受け止めていただくとともに、学校、家庭、地域、警察や医療機関などの関係機関等で緊密に連携し、不安や悩みを抱える児童生徒等が孤立することのないよう、地域全体で支援していただきますようお願いいたします。

(自殺直前のサインの例)

- ・ これまでに関心があった事柄に対して興味を失う
- ・ 成績が急に落ちる
- ・ 注意が集中できなくなる
- ・ 身だしなみを気になくなる
- ・ 健康管理や自己管理がおろそかになる
- ・ 不眠、食欲不振、体重減少などのさまざまな身体の不調を訴える

電話やメール、ネット等の相談窓口  
(リンク先には学校や警察、児童相談所等の相談窓口一覧もあります。)

令和5年8月  
文部科学大臣 永岡 桂子

## < SNSによる相談窓口の発信 >

### < Twitter >

文部科学省 MEXT @mextjapan

みなさんへ  
「こころがすっきりしない」「なんだか元気が出ない」  
良かったらその気持ち話してみませんか。  
[mext.go.jp/a\\_menu/shotou/...](https://mext.go.jp/a_menu/shotou/)

チャットボット (内閣官房HP)  
[notalone-cas.go.jp/under18/](https://notalone-cas.go.jp/under18/)  
相談先がわからない人はチャットボットも使ってみてください

#相談窓口

Translate post

18歳以下のみなさんへ | あなたはひとりじゃない  
[notalone-cas.go.jp](https://notalone-cas.go.jp/)

### < Facebook >

文部科学省 MEXT  
8月15日 15:11

【文部科学大臣メッセージ「～不安や悩みがあったら話してみよう～」】  
夏休み明け、新たに学校が始まることで、自分自身の進路の問題や、ご家族との関係、あるいは友人関係などで、不安や悩みが出てくるかもしれません。そんな時には、家族、先生、スクールカウンセラー、周りの友達など、信頼できる人にあなたの悩みを話してみませんか。話を聞いてもらうだけでも、心がすっと軽くなることもあります。絶対に、一人で悩みを抱え込まないでください。  
周りの人に相談しづらいときは、電話やメール、ネットで相談できる窓口がありますので、ぜひ利用してみてください。  
何を話していいかわからない、どの相談先に話したいかわからない人は、チャットボットを使ってみてください。

文部科学大臣メッセージ【～不安や悩みがあったら話してみよう～】  
[https://www.mext.go.jp/~/setoshidou/mext\\_00003.html](https://www.mext.go.jp/~/setoshidou/mext_00003.html)

相談窓口の情報はこちら  
○子供のSOSの相談窓口  
<https://www.mext.go.jp/~/shotou/seitoshidou/06112210.htm>  
○チャットボット (内閣官房孤独・孤立対策担当室HP)  
<https://www.notalone-cas.go.jp/under18/>

文部科学省  
小学生的みなさんへ  
～不安や悩みがあったら話してみよう～

もうすぐ夏休みが終わりますが、みなさんはどんな気持ちでしょうか。学校で笑しふりに友達と話をしたり、みんなで勉強したりするのが楽しみな人もいれば、もしかすると、いつもの生活や学校生活に困ったことや嫌なことがある人、学校が始まるのが不安な人もいます。

### < YouTube >



## < 子供のSOSダイヤル等の相談窓口 >

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm)

(文部科学省ホームページ) ※令和3年12月17日に改修

